

神楽名

しも かわのぼり 下川登神楽

伝承地

下川登地区
高千穂町大字三田井

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

下川登神楽保存会
代表 橋本 研一



杉登り

◆ 神楽の概要・由来・その他

高千穂神楽の^{み たい}三田井系統に属する神楽である。三田井地区は高千穂町の中心部に位置しており、その中でも下川登は農地と新興住宅地が混在している地域である。昭和30年頃に高度成長期に入り、人々の流出があったことから演目数が減り、夜神楽から日神楽に変わったが、その後昭和54年に夜神楽が再開され今日まで続いている。同じ三田井地区の^{あさか べ}浅ヶ部神楽保存会より途切れた演目を伝習して、現在は三十三番を奉納している。

氏神社である逢初天神宮は、江戸初期の高千穂庄神明帳には、高千穂八十八社の一社として「長崎^{なり}年大明神」と記され、正徳3年(1713)の神社改書上帳には「^{かのみや は}彼宮者、^{くにかつことかつ}國勝事勝と^{もうすおきなみや}申翁宮也、同所に森天神、あひそめ川、中園天神有り」と記されている。明治17年(1884)に発刊された^{ひら べ きょうなん}平部嶺南著『日向地誌』には川登神社とあり、現在は逢初天神社として三社神が合祀神として祀られている。

◆ 芸能の機会・場所

- 下川登夜神楽... 11月の最初の土・日曜日、^{あいそめ}逢初天神宮にて神事後、下川登公民館にて奉納
- ^{はいたか}拝鷹天神日神楽

◆ 演目一覧

| | | | | | | |
|--------------------------|---------------------------|------------------------|-------------------------|---------------------|---------------------|-----------------------|
| 宮神楽 | 道行き | 舞込み | ^{み こう や} 御神屋始め | ^{ひこまい} 彦舞 | ^{たいどの} 太殿 | ^{かみおろし} 神凧 |
| 鎮守 | 杉登り | ^{じ がため} 地固 | ^{へい かん ぜ} 幣神添 | 住吉 | 八鉢 | ^{おき え} 沖逢 |
| ^{た ち かん ぜ} 太刀神添 | 五穀 | ^{ゆみしょうご} 弓正護 | 御神体 | ^{ほん はな} 本花 | ^{いわくく} 岩潜り | ^{そで はな} 袖花 |
| ^{ぶ ち} 武智 | ^{しち き じん} 七鬼神 | ^{やまもり} 山森 | ^{だい じん} 大神 | ^{じ わり} 地割 | 日の前 | ^{しば ひき} 柴引 |
| 伊勢神楽 | ^{たちからおのみこと} 手力男命 | ^{うずめのみこと} 鈿女命 | ^{と とり} 戸取 | ^{まいびらき} 舞開 | ^{おんしば} 御柴 | ^{し め ぐち} 注連口 |
| ^{くりおろし} 繰下 | ^{くもおろし} 雲下 | | | | | |

※平成26年度の神楽奉納番付に基づく

❖ 演目の特徴

浅ヶ部神楽と同様に、前半は祓い清めの舞や諸々の神を招く舞が続き、深夜には「目覚まし神楽」とも呼ばれる「御神体」^{ごしんたい}「八鉢」などの面白い舞がある。岩戸開きの神話にちなんだ「岩戸五番」^{しばひき}（「柴引」^{たぢからお}「伊勢」^{うずめ}「手力男」^{ととり}「鈿女」^{まいびらき}「戸取」^{しめ}「舞開」^{しめぐち}）の六番）は高千穂神楽の代表的な神楽であり、夜明けに奉納される。最後に「注連神楽」として「注連口」^{くりおろし}「繰下」^{くもろし}「雲下」で神々を送って終了する。

❖ その他の特徴

- 面... 拝鷹天神、稲荷、逢初（復刻）、鈿女 等
- 楽... 太鼓、笛
- 装束... 白衣、白袴、素襖^{すおう}、千早、裁着袴^{たっつけはかま}、毛笠、どっさり、烏帽子、天冠 等
- 採り物... 鈴、榊、扇、御幣、杖（荒神杖等）、弓、矢、刀、麻緒、折敷^{おしき}、帯 等
- 文書... 「高千穂岩戸神楽」（昭和13年高千穂町教育委員会）を教書としている

❖ 伝承の現状・課題

三田井地区の浅ヶ部^{もとぐみ}、本組^{うしろかわち}、後川内^{かみかわのぼり}、上川登の保存会は、夜神楽並びに日神楽を互いに協力・研鑽し合い伝承を守ってきた。またこの地区は高千穂神社の周辺に位置しており、高千穂神社^{くしふる}や榊觸神社の祭事などでも神楽を奉納する。住民の多い地域で、子供の頃から神楽を習うなど後継者も育っており、舞い手^{ほうししゃ}（祝子者）の数も多い。



地固



八鉢



手力男命